

地域発・防災ラジオドラマ  
グループ名「江戸川女子中学校放送部」  
タイトル 「壊れる物、壊れないもの」

目覚ましの音

かな：「あーもう。」

朝食の音

母：「あ。おはよう。今日も遅いの。部活もいいけどちゃんと勉強しないとね。もうすぐ試験でしょ。ほら、髪の毛しばってないじゃない。定期持った。忘れ物ない。」

かな：「うるさいな。」

ドアの音

母：「まったく。最近、行ってきますも、ただいまも言わないんだから。」

車道ノイズ

かな：「お母さんはうるさい。なんか、色々めんどくさい。高校受験しなくていいっていうから中学受験したのに、結局は勉強。学校はつまらない訳じゃないけど行く必要があるのか疑問だ。毎日が家と学校の往復。これが後何年も続くんだ。」

チャイム、放課後のざわめき

かな：「みなさん、下校時間十分前です。活動する部活、委員会はず必ず特別活動の黒板に記入してください。」

放送部活動中の音

かな：「来週のお昼の放送のインタビュー撮りにいかなくちやね。」

あかね：「テスト前だから残っている部活少ないよ。」

かな：「そっかあ。みんな勉強してるのかな。」

あかね：「ああ。本当はさ、今の時代学校に行かなくても勉強できるよね。」

かな：「そうそう。学校もテストも必要ないんだよ。」

あかね：「あれ。」

かな：「どうした。。。わあー。」

地震の音

放送部員：「照明の下は危ない。」

かな：「止まった。」

放送部員：「うん、止まったよ。」

あかね：「何これ、どうなってんの。」

火災報知機が鳴る音

かな：「火事。」

あかね：「早く逃げなくちや。」

廊下を走る音

かな：「ガラスの破片だらけ。」

あかね：「何処も火事っぽくないけど。」

かな：「カフェテリアかもね。こっちの階段から逃げよう。」

廊下を走る音

あかね：「家庭科室だ。」

かな：「雪菜。」

雪菜：「かな。放送部も残っていたんだ。」

あかね：「火事。」

雪菜：「コンロ使ってて揺れで止まったんだけど油に移っちゃってね。」

かな：「火傷してない。」

雪菜：「うん。今先生が消してくれたけど、火災報知機が反応しちゃって。」

あかね：「皆も無事で良かったね。」

かな：「カフェテリアでも火を使っていたけれど揺れを感知するとすぐに止まるようになっているらしい。そういえば、消火器の使い方どころか何処にあるのか考えたこともなかった。」

萩原先生：「大丈夫、火傷している人はいない。これから説明する事をよく聞いて下さい。まず、歩いて帰れる距離の人も御両親が迎えに来るまでは学校に残ります。電車、バスはもちろん動いていません。皆学校で救助を待ちます。家の事が心配だと思っただけ電話が繋がるまで落ち着いて待ちましょう。何より皆自身が健康であることが大事だから。」

かな：「中三は部活や委員会を引退しているシテスト前に残っている生徒は少なかった。学校には全生徒の食糧三日分が貯蓄してあるとの事だ。この人数ならもっと長く持つだろう。でも、いつまでここで生活するんだろう。日が落ちて真っ暗になった。学校の自家発電はあるらしいけどコンセント一つ分で電話もトイレも使えないらしい。」

かな：「寒いな。」

雪菜：「皆、近寄って寝よう。」

夏輝：「おやすみ。」

あかね：「おやすみ。」

かな：「落ち着いてくると不安でいっぱいになった。家は大丈夫だろうか。どうしてお母さんが作ってくれたご飯を食べなかったんだろう。お母さん生きてるよね。皆眠れないようだった。あちこちで啜り泣く声が聞こえてくる。みんな。」

あかね：「びっくりした。」

かな：「寝てないんでしょ。」

雪菜：「まあね。」

かな：「修学旅行じゃないんだから時間通りに眠らなくていいよね。」

あかね：「確かに。」

かな：「眠くなったら寝ればいいよ。暗い中でずっと考えてると自分自身がぐらくなっちゃう。」

夏輝：「賛成。」

あかね：「ねえねえ。皆で屋上行かない。こんな事なかなかできないし。」

かな：「月が出ていた。空だけは何も変わっていなかった。皆屋上に寝転がっていろんな話をした。学校に居て良かったな。下校中に地震がきて駅で知らない人に囲まれた中だったらきつと耐えられなかったと思う。」

朝の鳥が鳴く音

雪菜：「おはよう。」

あかね：「何時。」

夏輝：「もう八時。九時になったら朝ご飯にするって言ってたよ。」

なか：「そのニュースは七日目に流れた。」

ラジオノイズ

ラジオ：「只今の時刻は六時三十分です。朝のニュースをお伝えします。まずは、東京大震災、各地の状況です。江戸川区から千葉、江東区にか

けての仮設道路建設舗装が完了しました。自宅難民の皆様は警察やボランティアの指導に従い、自宅近くの避難所に向かって下さい。また江東区から墨田区にかけて…。」

萩原先生：「千葉方面に向かう人はこっちに集まって。はい、こっちこっち。今から防災マップを配るから一緒に歩く。」

かな：「私達は歩き始めた。家の中は大変な事になっているらしいけど、住める状態だと電話で聞いた。私達頑張ったね。不安に押しつぶされそうになったり、夜の寒さに耐えたり。でも乗り越える事ができた。ありがとう、皆。学校はいつから元通りになるのかな。早くまた皆と勉強がしたい。部活がしたい。そして、帰ったら大きな声で言うんだ。」

ドアを開ける音

かな：「ただいま。」